

## 国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部会報

January 2023, JBCA KANTO CHAPTER BULLETIN, No. 118

### 支部長あいさつ

昨年は、あまり明るい話題のない1年でしたが、今年は良い1年となることを祈念しております。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、先週 JBCA の姉妹学会でもある ABC (Association for Business Communication) の欧州支部の学会 (ABC Regional Conference Europe, Middle East and Africa) に出席・発表して参りました。欧州ならではの興味深い研究発表もたくさんあり、また追ってご報告できればと思っております。

この学会は対面のみで実施されましたが、想像以上に多くの参加がありました。本支部会でも、対面の再開を視野に入れてはおりますが、諸事情を踏まえ、今回の研究会もオンラインにて実施致します。

前回同様、当学会または今回の発表にご興味をお持ちのお知り合いがいらっしゃいましたら、これを機会に是非お誘いください。(下記参照)。

今回は、3時開催で、第1部(3:10~3:55 予定)にて、山田正人様の発表を(発表タイトル「アジアビジネスコミュニケーションマップ」)、その後、新入会員の紹介、支部総会と続き、第2部(4:30~6:00 予定)では、新たな試みとして、「グローバル人材に必要な英語以外の能力」を考えて参りたいと思います。今回は Part 1 として「ビジネス日本語」を取り上げ、UMAP を中心とした東洋大学の試みと、イタリア カフォスカリ大学におけるビジネス日本語の授業をご紹介します。

また、午後 6:00 からはオンライン懇親会も予定しております。

お忙しい時期ではありますが、万障お繰り合わせの上、是非ご参加くださいませ。

関東支部長 藤尾美佐

### <ZOOM 研究会ご参加の際の注意点>

このニューズレターは会員の皆様への支部会報ですので、URL および ID など、以下に掲載いたします。

2023年1月28日(土) 15時から

<https://us02web.zoom.us/j/85368673917?pwd=SEM4YnJjSGhncnZLSkg1VHliT3dYZz09>

Meeting ID: 853 6867 3917

Passcode: 026420

会員の皆様からのご紹介がありましたら、お知り合いの方に体験参加いただくことも大歓迎です。是非、お声がけください。その際は、当日のスムーズな運用のため、以下の3名のメールアドレスに、事前出席者のお名前をお知らせいただければ幸いです。

支部長 藤尾美佐           misa\_f@toyo.jp  
支部長代行 野村誠二       seijinomura@nifty.com  
支部長補佐 佐藤洋一       sato108@toyo.jp

ZOOM には、マイクをオフにしてお入りください。また、万が一のことを考えまして、当日録画させていただきますので、事前にご了承くださいませ。(そのため、ビデオのオン・オフも個々にご判断いただければ幸いです)。これは公開目的ではなく、滞りなく研究会が終わった際には、すぐに消去する予定です。ただし、学会の PR のため、2、3 分の動画を編集する可能性もあります。その際には、必ずご本人に事前の同意を伺いますので、同意なく画像が残ることなどは一切ありません。

ZOOM の使用にご質問がある場合は、上記、佐藤洋一先生までお問い合わせください。  
多くの方のご参加、心よりお待ちしております。

## 2023 年 1 月 第 118 回関東支部研究会報告：研究テーマと発表内容

日程： 2023 年 1 月 28 日 (土)

会場： Zoom によるオンライン研究会 午後 3 時開始 午後 6 時終了 (予定)

午後 3:00 ~3:10 支部長挨拶および事務局からの報告

午後 3:10 ~3:55 発表 1 (研究発表)

発表者： 山田正人様 株式会社ドウ・ベスト(元資生堂)

題 目： アジアビジネスコミュニケーションマップ

要 旨： マネージメントとしてメンバーへのコミュニケーションの方法は非常に重要と言え、その国々に合わせた適切なコミュニケーション方法により、人材を動かし、成果につなげることがビジネス成功の一因といえます。エリン・マイヤー教授のコミュニケーションマップよりインスピレーションを受け(High Context vs Low Context・Indirect Negative feedback vs Direct Negative feedback など)で国別のコミュニケーション特性の分類、自分のマネージメントとしての経験を、マネージメント軸(北風 vs 太陽)とコミュニケーションスタイル軸(パブリック vs プライベート)の 2 つの軸で、自分が駐在した、台湾・香港・タイランド・上海・北京を分類しました。自分の経験に基づく独自の分析となりますが、将来、グローバルビジネスを担う人材やその人材を育成するビジネスコミュニケーション学会の先生方の参考になれば幸いです。

午後 3:55 ~4:10 新入会員のご紹介ほか

午後 4:10 ~4:30 支部総会 (2022 年度の支部会計報告・監査報告について)

午後 4:30~6:00 第 2 部 (ゲスト・スピーカー)

「グローバル人材に必要な英語以外の能力 Part 1: ビジネス日本語)

午後 4:30 ~4:45 第 2 部 インTRODクシヨN (藤尾美佐支部長)

午後 4:45 ~5:15 (ゲスト・スピーカー)

発表者： 玉田誠様 (東洋大学国際部 次長)

題 目： ビジネス日本語教育のための東洋大学の新たな試み

要 旨： 東洋大学は外国人向けのビジネス日本語教育を強化し、同大のブランドの一つにする。留学生のキャリア構築には日本企業による採用が重要とみて、独自プログラムを開講。オンライン 10 日間で 2 万人超が受講するなど実績を上げている。文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に 2022 年度採択を受け、この戦略に沿った受け入れを増やす。アルバイト先で覚える会話と異なる、好待遇の就職につながる留学生の支援を進める。

2020 年度から「ビジネス日本語ポイント講座」を開講。無料で、大学コンソーシアム型の「JV キャンパス」にも提供しており、各回、2 万人超を集めた。2022 年 9 月は手数料約 10 ドルの 7 日間コースにしたが、14 回分に世界約 50 カ国から延べ約 3,300 人が受講し、手応えを得た。内訳は日系企業など会社員 28%、学部生 27%、大学院生 15%、日本語教師 6% だった。国別ではベトナム、中国、イタリアなどが多く、敬語や日本企業文化などが人気だった。

午後 5:15~5:45: (ゲスト・スピーカー)

発表者： マルチェッラ・マリオッティ (Marcella MARIOTTI) 先生

(ヴェネツィア・カフォスカリ大学アジア・北アフリカ研究学部准教授)

題 目： イタリアにおけるビジネス日本語教育

— ケース・スタディーとしてのカフォスカリ大学での授業 —

要 旨： ヴェネツィア・カフォスカリ大学のビジネス日本語コースは 2011 年に始まりました。本発表では、選択科目であった初期段階から、経済・法律コースに入学する学生の必修科目となった中期段階、そして現在も必修科目でありながら、カフォスカリ大学が開発した e ラーニングプラットフォーム (JaLea Business, Mariotti, Mantelli, Garassino 2018) と Giapponese per il Business. Guida al linguaggio nel mondo del lavoro (Mariotti 2019: Japanese for Business. A guide to using language in the professional environment.) という専用のテキストに頼ることができる現在まで、その経路と様子を紹介します。

また、2019 年から 21 年にかけて行った Virtual businesses exchange プロジェクト (Mariotti, Nishida, 2021) が、コロナ禍で頻繁にメディアに取り上げている学生の低い自尊心、短い集中力、就職への絶望などといった課題への対処にどのように役立ったかと、ビジネス外国語研究への貢献を論じます。

午後 5:45 ~6:00 質疑応答

午後 6:00 ~ オンライン懇親会

## 前回支部会について

2022年9月24日（土）に行われました、第117回関東支部会(オンライン)の発表テーマ及び概要を報告致します。

\*要旨は発表時のもの。

日程： 2022年9月24日（土）

会場： Zoomによるオンライン研究会 午後2時30分開始 午後6時終了（予定）

### 午後2:30～2:40 支部長挨拶および事務局からの報告

#### 午後2:40～3:25 発表1（研究発表）

発表者： 戸田博之先生（Office AH(オフィス エイ・エイチ)）

題目： オンラインツール活用による授業の双方向性向上の試み

要旨： コロナ禍に入って以来、大学の授業のほとんどがオンライン授業に移行した。そのような環境下、対面授業に比べて知識やノウハウの伝達が十分にできるかがもちろん教員にとっては大きな課題となった。他方、今ひとつの大きな課題として浮かび上がってきたのは、教員と学生が別々の空間にいることやいわゆる「カメラオフ」での受講が多いことなどに起因する学生の参加状況の把握の難しさであった。本発表では、この参加状況の把握を十分に行うのみならず、対面授業と比べても授業の双方向性を向上させるために行った数々のオンラインツールの活用事例を紹介し、残存した課題だけではなく、オンラインツールを使うことによる授業の新たな方向性についても伝えていきたい。また、本発表を機会に、オンラインツール活用に関わる研究者間の情報交換のきっかけとしたい。

### 午後3:25～3:40 新入会員のご紹介

#### 午後3:40～4:00： ミニコーナー1（トピックとしてのミニ情報の紹介）

発表者： 本田 健様（東京センチュリー株式会社 上席参与）

題目： 日本におけるリース会社の構造改革・成長戦略について～

「業界最大手の一社である東京センチュリー(株)の多角化・国際化事例から見た成長戦略について」

要旨： 主力商品であったファイナンス・リースが、リース会計の改正によりそれまでのオフバランス商品からオンバランスされたことにより、マーケット規模が僅か3年で7兆円から一気に4兆円まで急減。その様な厳しい経営環境の中で、具体的にどの様に多角化・国際化を推進してきたのか、直近約10年の成長戦略の軌跡を振り返る。

### 午後4:00～4:20 ミニコーナー2（JBCAでの研究動向の変遷についてのまとめ）

発表者： 小林猛久先生（和光大学経済経営学部）（JBCA 理事長）

題目： 国際ビジネスコミュニケーション学会における研究内容の変遷と特徴

論旨： 国際ビジネスコミュニケーション学会（旧 日本商業英語学会）は国際取引および国際経営におけるコミュニケーションの研究者の集団で、1934年の『旧日本商業英語学会』発足に始まる80年以上の歴史を持った学会です。2002年に日本商業英語学会から国際ビジネスコミ

コミュニケーション学会に名称変更を行いました。それまでに25年以上の議論が行われていたと伺っています。

創設当初の研究主題は、ビジネスレター（貿易通信文・商業英語）の作法や効率的な書き方、インコタームスの研究などでありました。その後、ビジネスのグローバル化やインターネットを始めとする通信手段の技術革新により、国際ビジネスの取引に関する契約やビジネスレターの研究に加えて、異文化コミュニケーションやマーケティング、金融など幅広い分野におけるビジネスコミュニケーションの研究も主学会の主要な研究テーマとして取り込まれるようになりました。つまり、（ビジネス）英語や国際ビジネスに関する制度研究そのものだけではなく、それらと様々な場面におけるビジネスコミュニケーションとの関連を調査・研究する必要性が高まって来たのです。

今回の発表では、足立先生、林田先生により、日本経済学会連合に発表された当学会の研究内容の変遷と特徴の分析二編を踏まえて、その後の傾向を加えた内容となります。JBICAへ最近ご入会された会員の皆様、今後当学会でどのような研究発表を進めて良いかお悩みの会員の皆様などに、何らかのお役に立てることができれば幸いです。

なお、本発表は、2017年にKABC（韓国ビジネスコミュニケーション学会）の慶州大会で発表した内容を利用していますので、それ以後の最新研究トレンドは網羅できていませんことをご了承願います。

#### 午後 4:20 ～4:40 休憩（時間調整）

#### 午後 4:40 ～6:00 発表 2（ゲスト・スピーカー）

発表者： Bonaventura RUPERTI 先生（ボナヴェントゥーラ・ルペルティ）

（ヴェネツィア、カ・フォスカリ大学 アジア・地中海アフリカ研究学科日本語 日本演劇教授）

題目： 新型コロナウイルス禍のイタリア・ヨーロッパ・日本の対応の違いー舞台芸術を中心にー  
（発表言語：日本語）

要旨： ヨーロッパ文明の発祥地は、ギリシアとイタリアです。舞台芸術の分野でも、日本のように、長い歴史と伝統を誇る（古代ギリシアと古代ローマの悲劇・喜劇、ルネッサンスの悲劇・喜劇とコンメディア・デッラルテの仮面劇、各地方における方言演劇、発祥地と主流なるオペラ、楽劇、バレエとダンス、人形劇、近・現代演劇から最新の実験などの）イタリアの演劇は、コロナウイルス時代の緊急事態の中で今までの舞台芸術の豊かな活動をどのように考え直してきたのでしょうか。

本発表では、ヨーロッパ諸国と日本との比較をしながら、文化活動の産業、特に舞台芸術関係の仕事の人々、演劇人、アーティストと裏方はコロナ禍という苦境とどのように向き合ったか、距離を守り、接触を避けることを余儀なくされた世の中でどのように生きて、感じて、創作を続けてきたか、作り手と多数の享受者の共存によって（生で、身体で）創造されると同時に享受される舞台芸術はどのように変化してきたか、そしてこの臨界を越えてどのように変化していくかということについて考えたいと思います。

以上のジャンルからいくつか実例を挙げながら、報告したいと思います。

午後 6:00 ～ オンライン懇親会

\*会員の方の新刊情報があれば、お知らせください。

編集・発行 〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20  
東洋大学 経営学部 藤尾美佐 研究室内  
国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部長 藤尾美佐  
TEL 03-3945-7295 (直通) FAX 03-3945-7477 (教務課)  
電子メール: misa.fujio@gmail.com / misa\_f@toyo.jp  
国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部長代行 野村誠二  
電子メール: seijinomura@nifty.com